

ネズミ例会（第82回例会）のお報せ

日時：2022年1月29日(土) 13:00～

会場：Zoomによる完全オンライン

テーマ：人と“ネズミ”の片思いの関係史から人類史を読み解く

趣旨：生き物文化誌学会では、今まで家畜、経済動物、有害鳥獣など、つまり人間との利害関係が深い動物と人間の関係についておもしろい話題にしてきた。これらの動物は人間が積極的に移動させたり数を調整したりして分布域を拡大してきた。しかし人間とは直接的な利害関係がなく人間の生活に寄生している動物（例えば住家性ネズミ類など）は、人間の諸活動とともに非意図的に移動する。これらの動物の移動・分散は人間の活動を反映しているため、これらの動物の移動・分散の過程を推定することにより、人間の活動史について読み解くことが可能になる。これらの動物は一般に小型の住家性のげっ歯類やトガリネズミ類に属する種が多く、これらの動物が一般に注目されることは少ない。この例会ではあまり顧みられないことがない住家性の小型哺乳類（げっ歯類、トガリネズミ類）の分布変遷の過程を通じて人間の歴史を顧みたい。これらの小さくて見栄えがしない小型の動物でも、そこから得られる情報は人間の歴史を俯瞰するのに大きな意味を持つ、ということをお報せの参加者にも知っていただき、これを期に多くの方々にこれらの小さな動物にも関心をもっていただきたい。

なお、本例会はバイオストーリー36号の特集をもとに開かれますので、参加者は本号をテキストとしてご利用ください。

ネズミ例会実行委員会委員長：大館大学

演題： 司会 鈴木仁（北海道大学）

趣旨説明 大館大学（北海道大学）

講演Ⅰ「ハツカネズミにみるアジア先史農耕の陸海展開ルート」 鈴木仁（北海道大学）

講演Ⅱ「日本列島のクマネズミはどこからやってきたのか？」 甲斐一（北海道大学）

講演Ⅲ「ジネズミ類の系統地理学—繰り返される人による移動」 大館大学（北海道大学）

講演Ⅳ「日本における家ネズミの考古学的記録」 山崎健（奈良文化財研究所）

講演Ⅴ「19世紀日本における鼠と小さい鼠—鼯鼠・鼯鼠・鼯鼠」 安田容子（安田女子大）

講演Ⅵ「西アジアの“ねずみ”をめぐる文化誌」 守川知子（東京大学）

講演Ⅶ「東ユーラシアにおける10万年の人類史」 斎藤成也（国立遺伝学研究所）

講演Ⅷ「太平洋を中心とするヒトの拡散—イースター島からマダガスカルまで」 菊澤律子（国立民族学博物館）

講演Ⅸ「インド洋周辺域の歴史」 鈴木英明（国立民族学博物館）

総合討論 上記の演者 + 遠藤秀紀（東京大学）

参加資格 生き物文化誌学会会員。会員でない方は参加できません。

参加費 **2,000円**（正会員、賛助会員）、**1,000円**（20歳未満）
参加費の振込先は追ってお知らせします。原則として返金をいたしません。

参加申し込み 次のGoogle Formでお申し込み下さい。

<https://forms.gle/DR4Jk2eQZ3xsBA9f6>

参加申し込み期限 **2022年1月5日（水）**

お問い合わせ 生き物文化誌学会 ネズミ例会実行委員会 遠藤秀紀

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合研究博物館

e-mail : ikimonobunka@yahoo.co.jp

